

大和証券株式会社 吉祥寺支店
個人投資家様向け会社説明会

株式会社インターネットイニシアティブ

(東証一部：3774／米国ナスダック：IIJI)

2016年4月6日

Ongoing Innovation



※事業等のリスク※

本資料には、1995年米国民事訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）の「セーフハーバー」規定に定義する「将来性の見通しに関する記述（forward looking statements）」に該当する情報が記載されています。本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。現時点において想定しうる当社グループの主なリスク及び不確実性として、

- 1) 国内景気の低迷、経済情勢の変化等による企業のシステム投資及び支出意欲の低下、
- 2) サービスの利用が想定よりも進展しないまたは縮小することによる設備投資規模に対する収益性の悪化、
- 3) サービスの中断等による当社グループのサービスへの信頼性の低下及び事業機会の逸失、
- 4) ネットワーク関連費用、モバイル接続料、外注費、人件費等、費用規模の想定を超える増加、
- 5) リソース不足に起因する事業規模拡大の機会の逸失、
- 6) 競合他社との競争及び価格競争の進展、
- 7) 投資有価証券、営業権等ののれん資産の価値変動及び実現

等がありますが、これら及びその他のリスク及び不確実性については、当社グループまたは当社が、1934年米国証券取引法（Securities Exchange Act of 1934）に基づき米国証券取引委員会に届出し開示している英文年次報告書（Form 20-F）及びその他の書類をご参照下さい。

本日のアジェンダ

1. 会社概要・事業内容

2. IIJの強み

3. 成長戦略

4. 業績推移・見通し

5. コーポレート・ガバナンス

会社概要

IIJは、国内初の本格的商用インターネット接続事業者であり、日本のインターネットインフラ・サービスを創り上げ、インターネットの先駆者として技術イニシアティブを取り続けております。

創業	1992年12月
上場証券取引所	東証一部（2006年上場）、米国ナスダック（1999年上場）
連結従業員数 (2015年12月31日現在)	2,977名（約7割 技術者）
連結子会社 (2015年3月31日現在)	国内7社 海外8社
連結売上高 (2015年3月期)	1,231億円
大株主 (2015年9月30日現在)	NTT(21.6%)、NTTコミュニケーションズ(4.4%) 代表取締役会長 鈴木 幸一（実質保有5.6%）

経営理念

経営理念に沿い事業運営を進めることにより、継続的に企業価値を増大し、また企業グループとしての社会的責任を果たしていきたいと考えております。

インターネット技術のイニシアティブを取り続け、ネットワーク社会が持つ無限の可能性を切り開いていく。

社会インフラを支えるための高信頼性、高付加価値なITサービスの開発、提供を行なうことにより、ネットワーク社会が最適に運営されることに貢献していく。

技術革新や社会貢献に積極果敢に挑戦する人材が集まり、誇りとやりがいをもって自律的に能力を発揮出来る場を提供していく。

事業概要

インターネット技術を基に信頼性・付加価値の高い ネットワークサービス・システムを複合提供

自社利用

官公庁向け

B2C利用

B2B利用

M2M利用

個人顧客

業界問わずインターネットシステムを利用する
8,500社超の優良法人企業

システムインテグレーション (SI)

アウトソーシングサービス

電子メール ウェブサイト セキュリティ
データセンター VPN クラウド

WANサービス

イーサネット閉域網

インターネット接続サービス

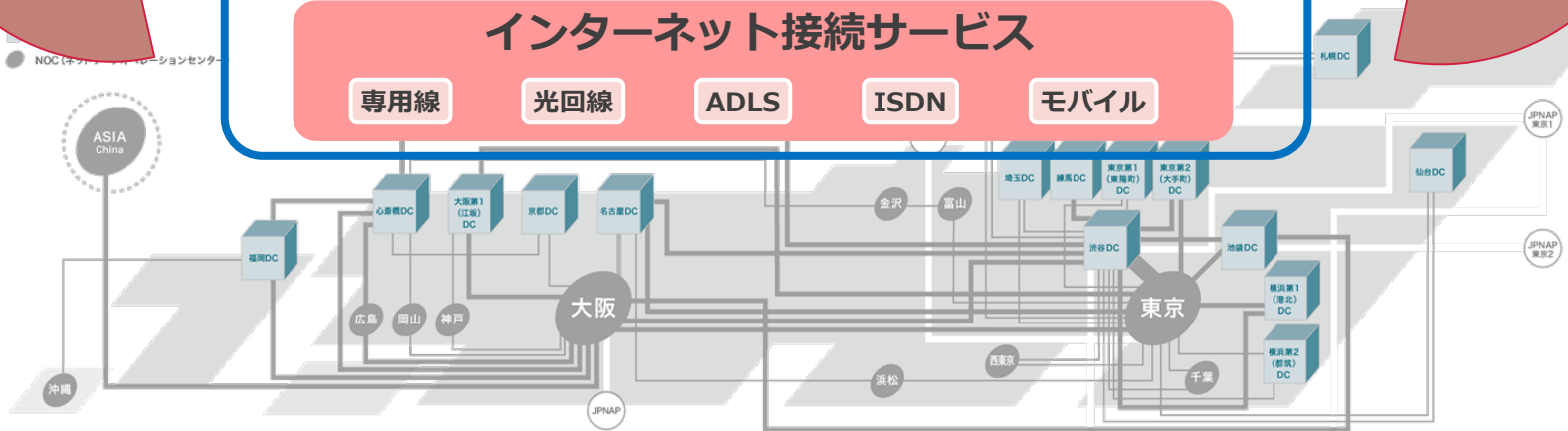
専用線

光回線

ADLS

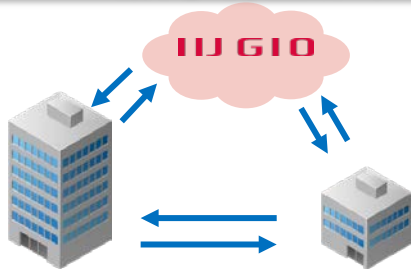
ISDN

モバイル



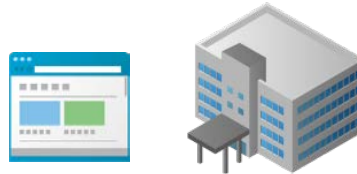
こんなところにもIIJ

一般事業法人



- 本支店間ネットワーク
 - 社内システムのクラウド化
 - メール・Webアクセスのアウトソース
 - 海外拠点ネットワーク・システム接続
 - ディザスターリカバリーシステム
- 等の構築と運用

公共・インフラ



- 某全世帯一斉調査システム
 - 地方自治体向けシステム
 - 大学間ネットワーク
 - 中央官庁Webサイト
 - 河川関連情報測定システム
- 等の構築と運用

金融機関



- オンライン証券システム
 - メガバンク向けオンラインバンキングシステム
 - 不正送金対策ソリューション
 - 侵入検知・DDoS攻撃対策サービス
 - FXシステム
- 等の構築と運用

Webサービス



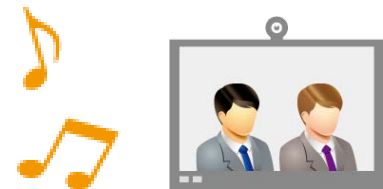
- 大手検索サイト
 - 大手オンラインチケット販売サイト
 - 大手旅行代理店予約システム
 - 大手百貨店通販サイト
 - SNS・ゲームシステム
- 等の構築と運用

モバイル



- 車両走行情報等の収集システム
 - 飲料自販売機無線接続
 - バスロケーションシステム
 - デジタルサイネージ
 - 全国ゲームセンター無線接続
 - 電力関連データ収集システム
- 等の構築と運用

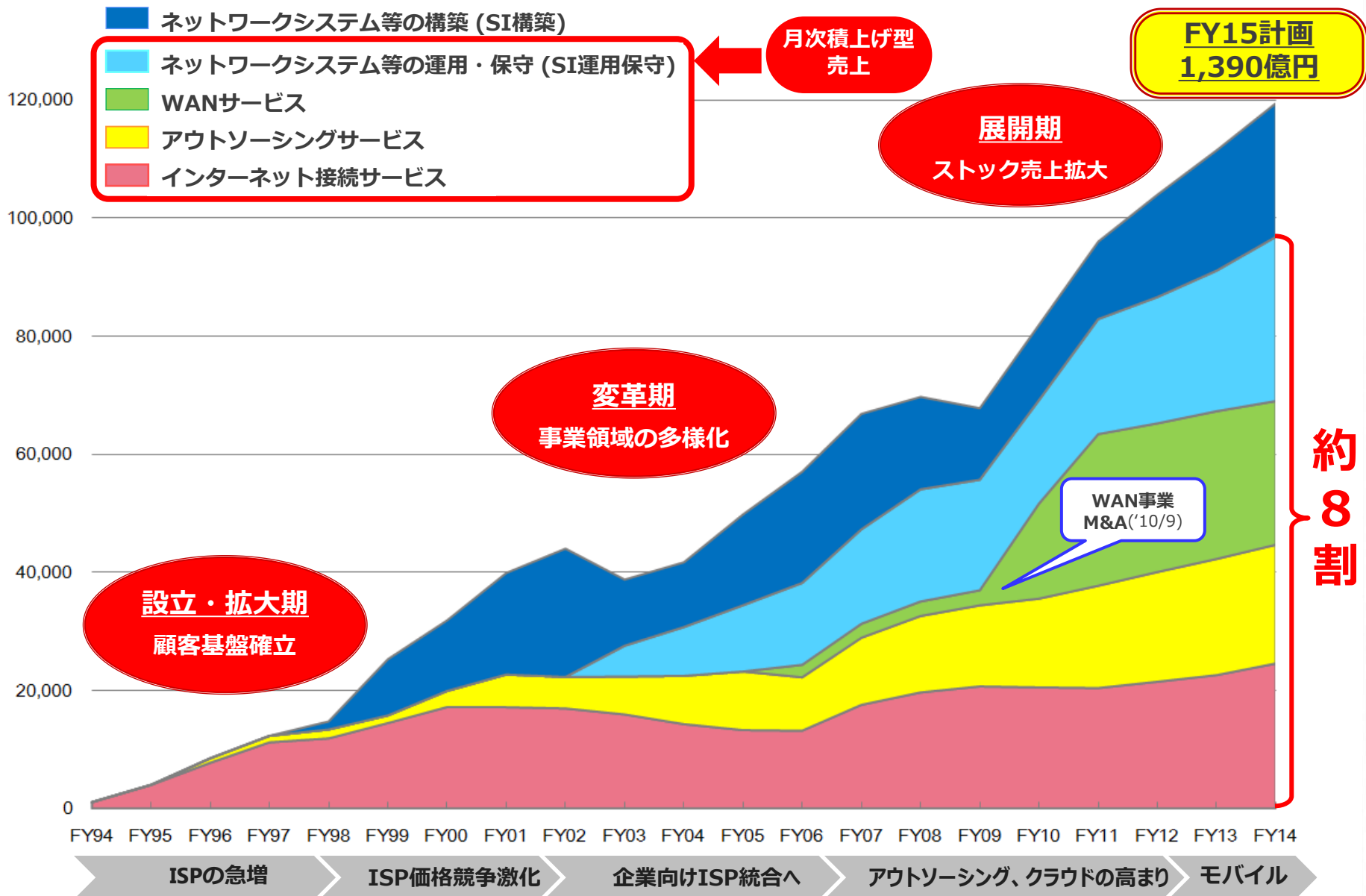
配信



- 甲子園高校野球インターネット配信
- ベルリンフィルハイレゾ配信
- 大手配信事業者・TV局動画配信システム
- 株主総会ライブ中継
- 放送局野外イベント中継

等

事業規模の変遷



本日のアジェンダ

1. 会社概要・事業内容

2. IIJの強み

3. 成長戦略

4. 業績推移・見通し

5. コーポレート・ガバナンス

IIJのネットワーク

ネットワークリソース

◆国内最大規模のインターネットバックボーン

- マルチキャリア構成・メッシュ構造
- 国内データセンター20箇所



高信頼性・
スケールメリット

◆バックボーンのグローバル運用

- 海外データセンター4カ国6箇所
- 北米・欧州・アジアに延伸



グローバルソリューション・
プレゼンス

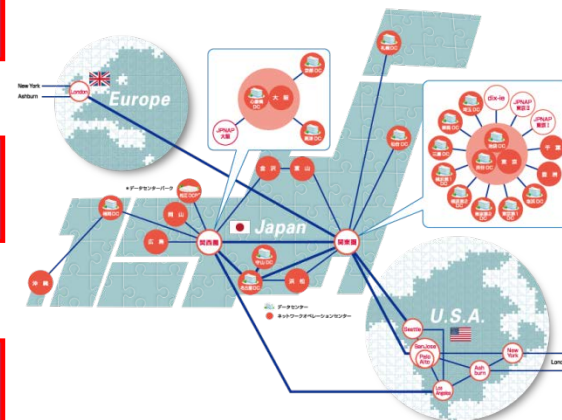
◆卓越したネットワーク技術力

- ネットワーク技術発展への積極的な参画
- 国内外の技術関連団体をリード



エンジニア・技術優位性の
好循環サイクル

＜IIJインターネットバックボーン＞



ネットワーク運用力

◆徹底した回線・ルート・機器の冗長構成にて止まらないネットワークを構築・運用

- 神戸・東日本大震災でも途切れず

◆法人顧客のビジネス利用に適した信頼性の高いネットワーク・システム運用実績

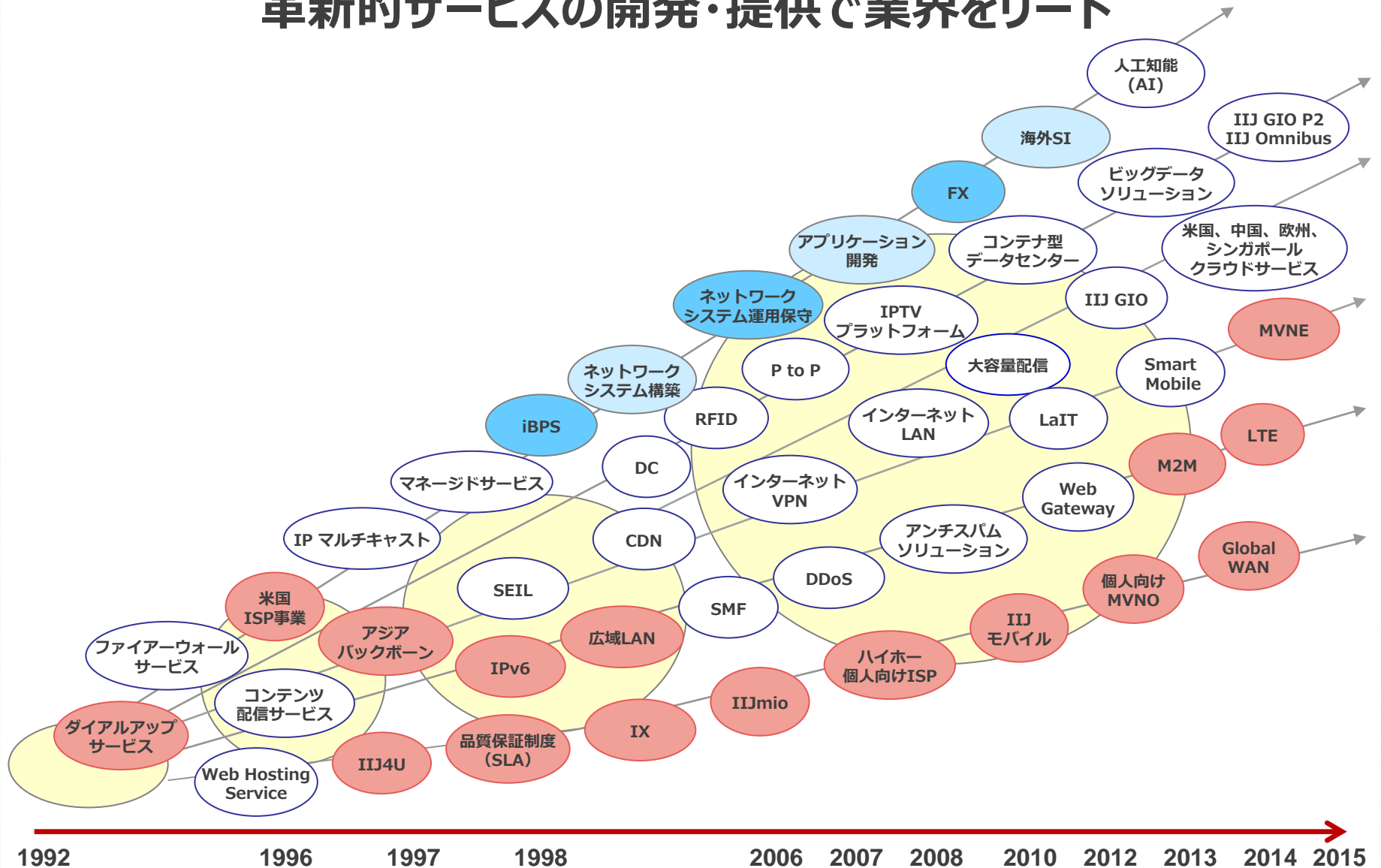
- 創業以降20年以上に亘り重大障害なし

＜IIJネットワーク稼働率＞

99.9999%

インターネット関連サービス開発力

革新的サービスの開発・提供で業界をリード



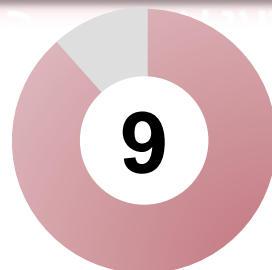
1992 1996 1997 1998 2006 2007 2008 2010 2012 2013 2014 2015

優良顧客基盤

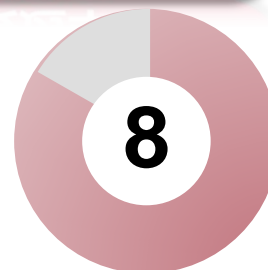
各業界売上上位10社における
高いIIJサービス利用浸透率



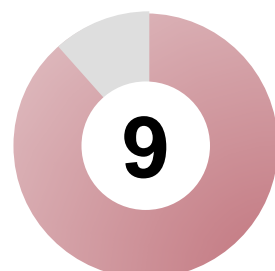
電機



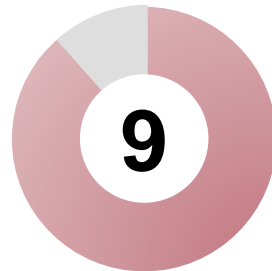
情報・通信



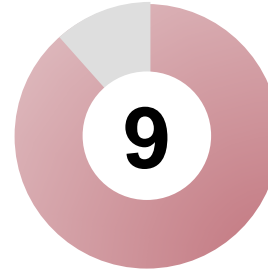
機械



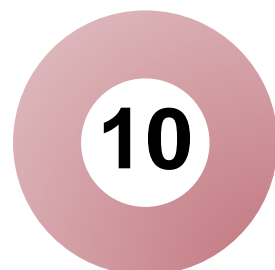
証券



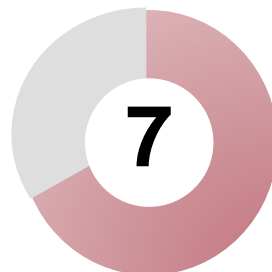
小売



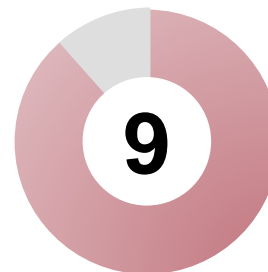
卸売



建設



保険



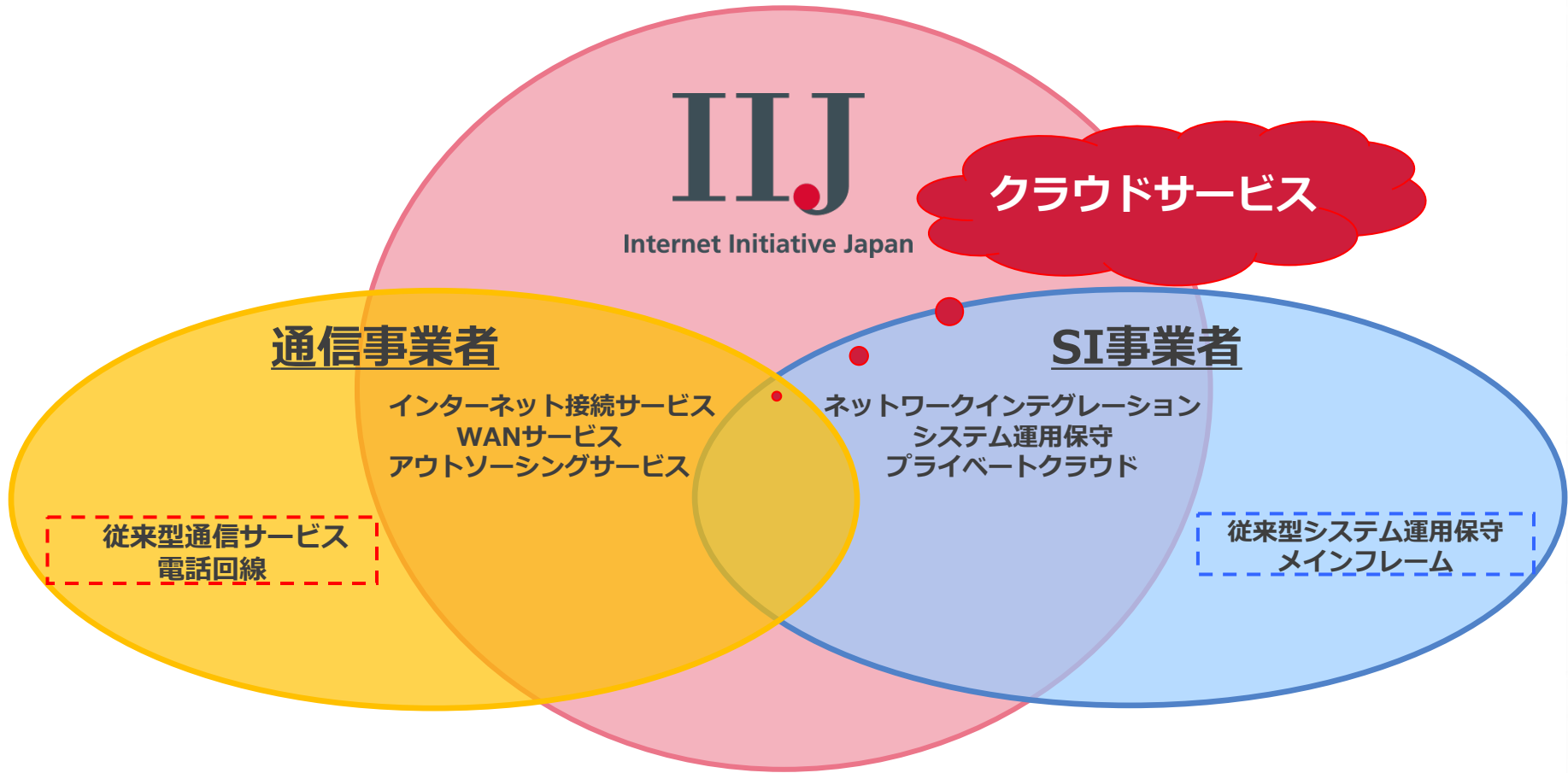
精密機器

<出典> 東洋経済新報社「会社四季報CD-ROM」、日本実業出版社「業界シェア&市場規模」等から当社作成

サービスラインアップ

売上		主なサービス内容	事業状況
ネット ワーク サービス	法人向け インターネット 接続サービス	<ul style="list-style-type: none"> 法人向けインターネット接続 高パフォーマンスの専用線 冗長性の高い拠点間接続 	<ul style="list-style-type: none"> 新規参入困難な市場、優良顧客への独占的ポジション 利用通信量・帯域幅増加に伴い、継続増収展望
	個人向け インターネット 接続サービス	モバイル <ul style="list-style-type: none"> 法人向けモバイルソリューション、M2M/IoT、MVNE等 個人向け格安SIM 	<ul style="list-style-type: none"> 法人：M2M/IoT関連サービスの中長期需要拡大展望 個人：市場急成長中、販路拡大等販売注力
	WAN	<ul style="list-style-type: none"> 拠点間を結ぶ閉域網ネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 長期安定市場
	アウトソーシング	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ、データセンター、Eメールアウトソース、ネットワーク・サーバー管理等の独自開発サービス群 	<ul style="list-style-type: none"> サービスの複合提供で法人顧客需要を獲得、継続したサービス開発が重要 セキュリティ需要増加
	運用保守	クラウド <ul style="list-style-type: none"> 幅広いサービスラインナップ、高信頼性・高付加価値 ハイブリッド・マルチクラウド関連ソリューション パートナー協業にてアプリ需要開拓 	<ul style="list-style-type: none"> 社内基幹システムクラウド化の流れ、中長期の事業機会拡大を展望 ネットワーク・システムは将来クラウドに収斂
SI	構築	<ul style="list-style-type: none"> オンラインバンキング・証券、大学間ネットワーク、オンラインショッピング等のインターネット関連のシステム構築 クラウド、モバイル関連のシステム構築 構築後に運用保守積み上げ 	<ul style="list-style-type: none"> クラウドやモバイルシステムの進展にSIにより付加価値を提供
機器販売			

事業領域と競合関係



競合企業との相違点

- 優秀なインターネットエンジニア集団
- インターネット関連案件における高いブランド力
- 風通しの良いフラットな組織風土

- 大規模なネットワークを自社で構築・運用
- 先進的なネットワークサービスを自社で開発
- 業界に偏りのない優良顧客基盤

本日のアジェンダ

1. 会社概要・事業内容

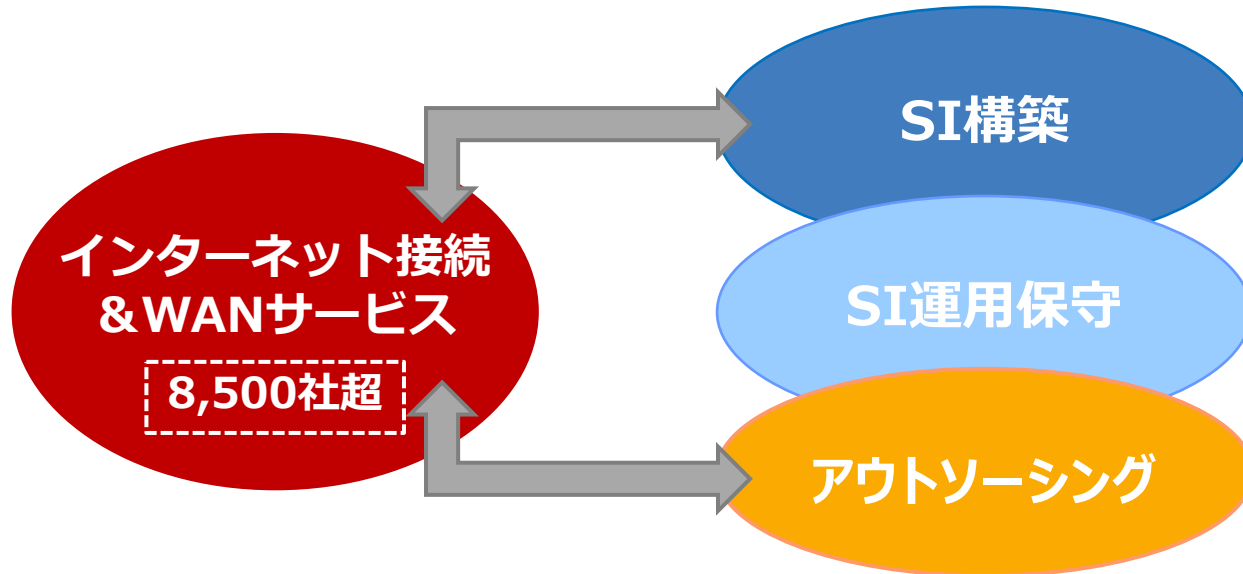
2. IIJの強み

3. 成長戦略

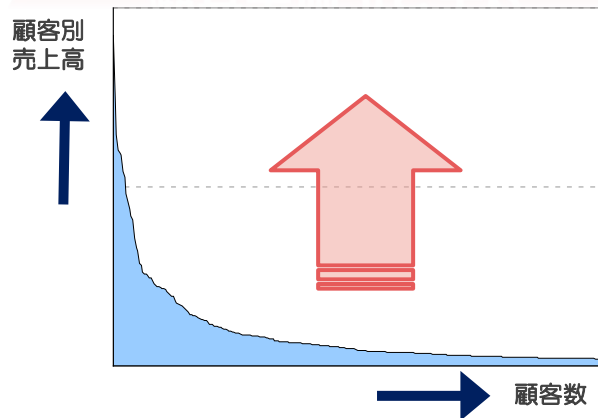
4. 業績推移・見通し

5. コーポレート・ガバナンス

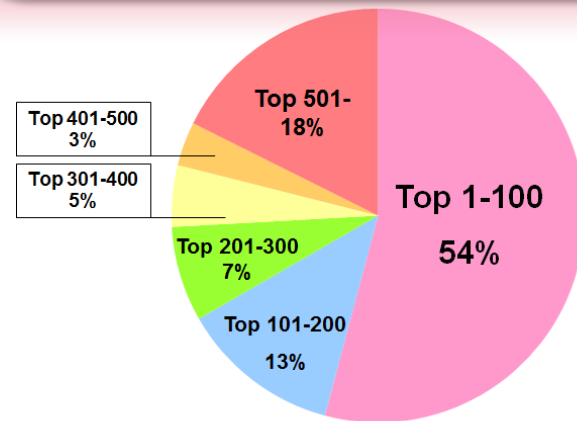
クロスセリングモデル



クロスセル推進による 顧客単価引き上げ



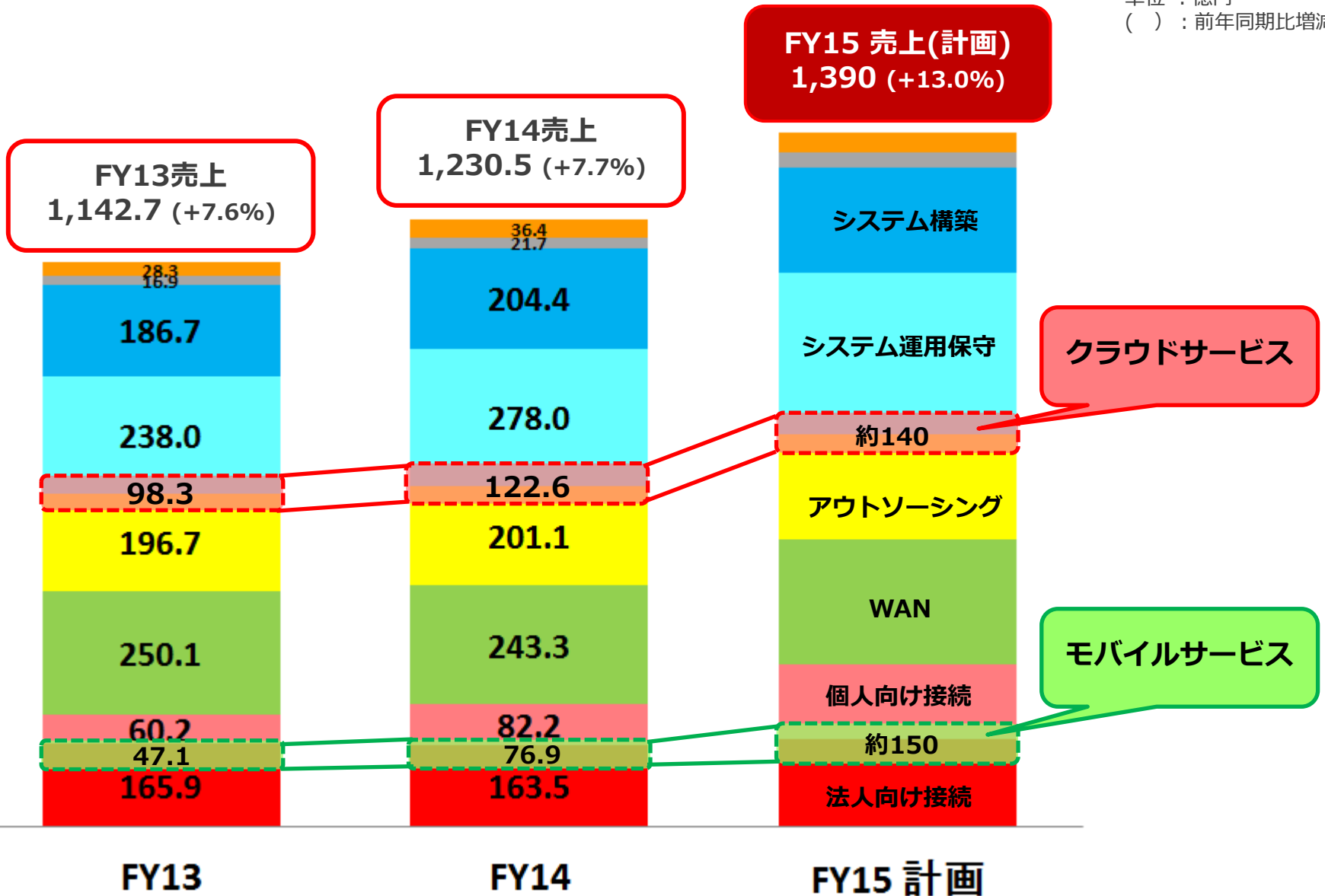
顧客順別売上占有率



FY14 IIJ単体売上より

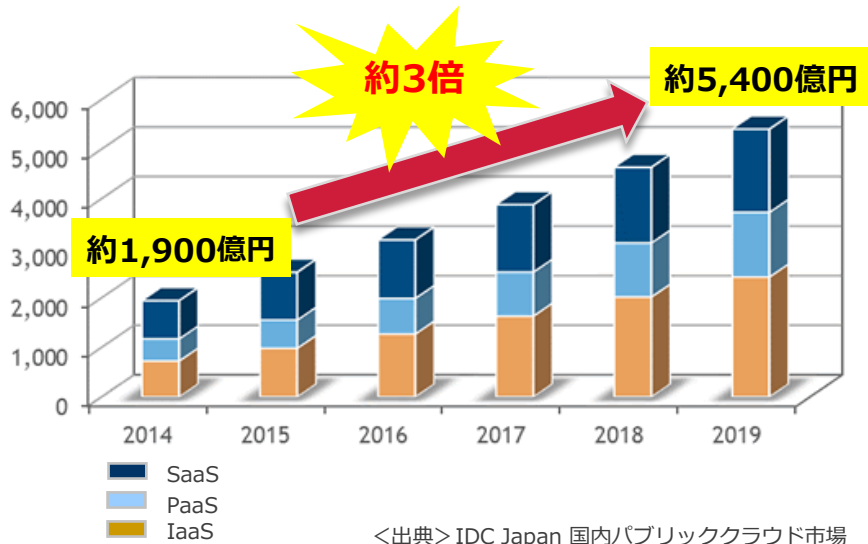
クロスセリングによる継続増収

単位：億円
 ()：前年同期比増減



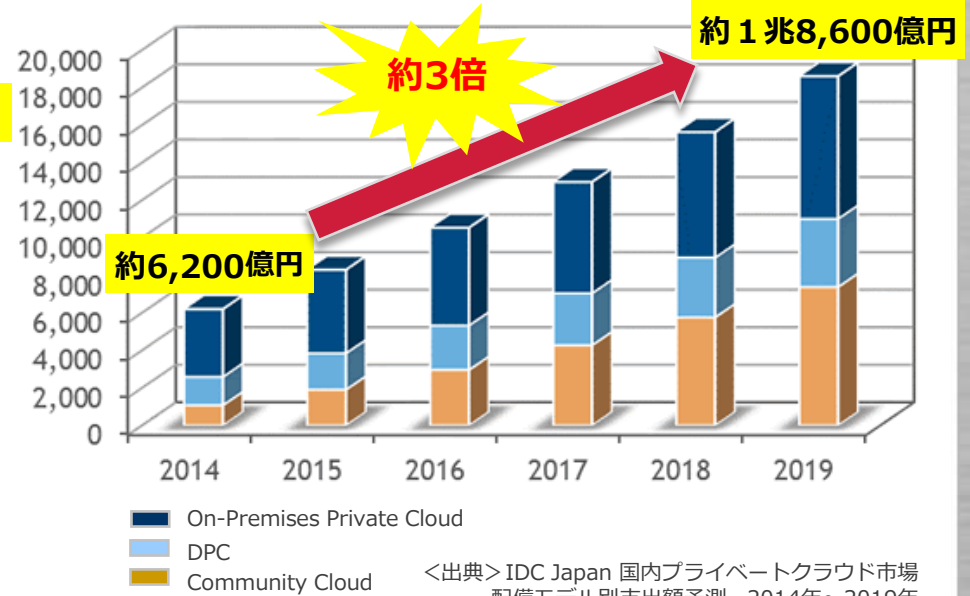
クラウドサービス ～市場状況～

パブリッククラウド市場



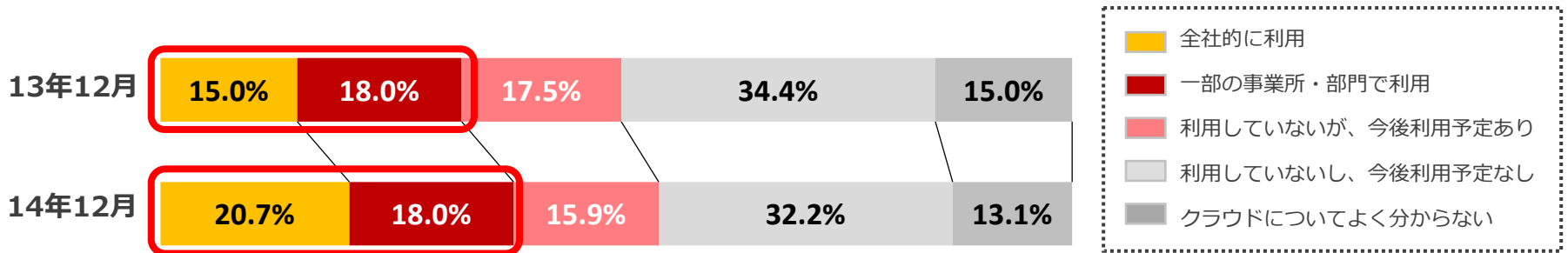
<出典> IDC Japan 国内パブリッククラウド市場セグメント別売上額予測 2014年～2019年

プライベートクラウド市場



<出典> IDC Japan 国内プライベートクラウド市場配備モデル別支出額予測 2014年～2019年

国内企業のクラウドサービス利用動向



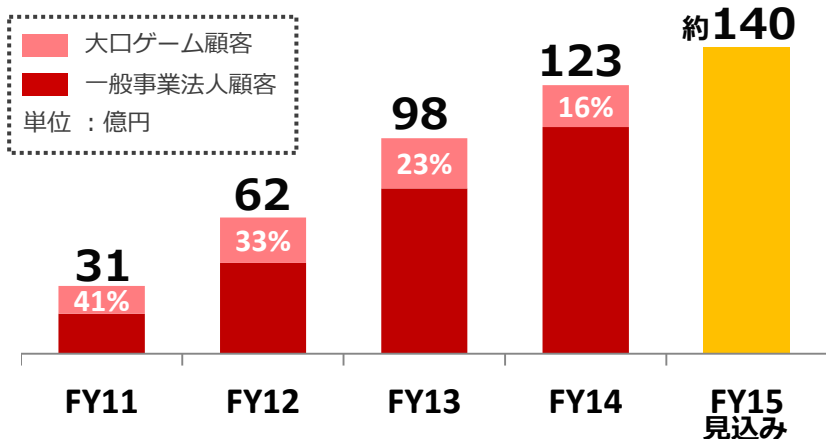
<出典> 平成27年版 情報通信白書

クラウド利用企業割合：33.0%から38.7%へと5.7ポイント上昇

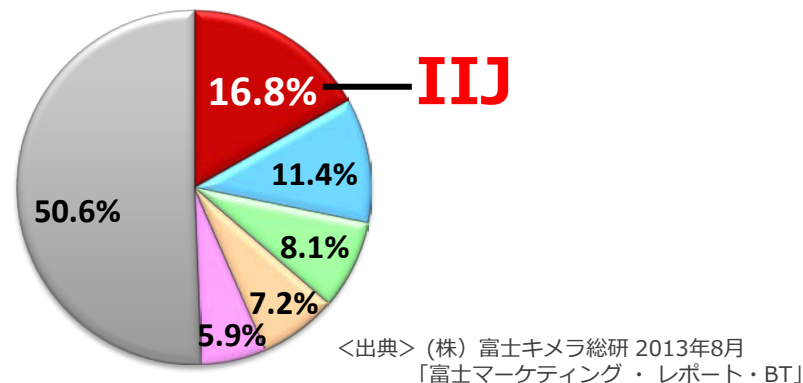
クラウドサービス ～ビジネス概況～

IIJ GIO

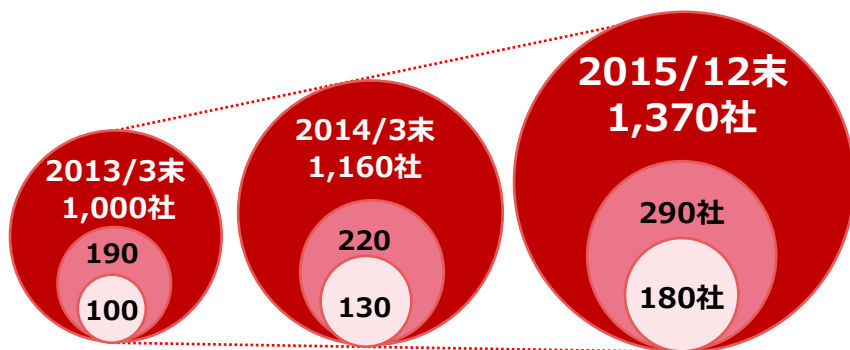
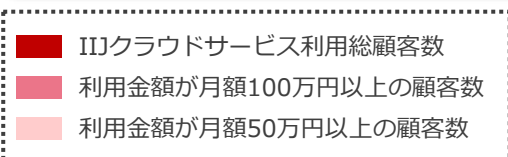
IIJクラウド関連売上推移



国内パブリッククラウド市場



IIJクラウド顧客基盤



成長戦略

◆拡大するクラウド市場

- 社内システム等のクラウド移行は緩やかに拡大
- ビッグデータ・IoT等の普及に伴い需要拡大

◆大企業に信頼されるクラウドサービス

- 高いネットワーク・システム運用技術にて安定稼働
- クラウド移行を推進するサービスラインアップ
- セキュリティ、個別SI等の複合提案
- パートナー拡大による販路機会増加

◆継続増収による粗利拡大で利益増加を牽引

モバイルサービス ～市場状況～

MVNO・格安SIM

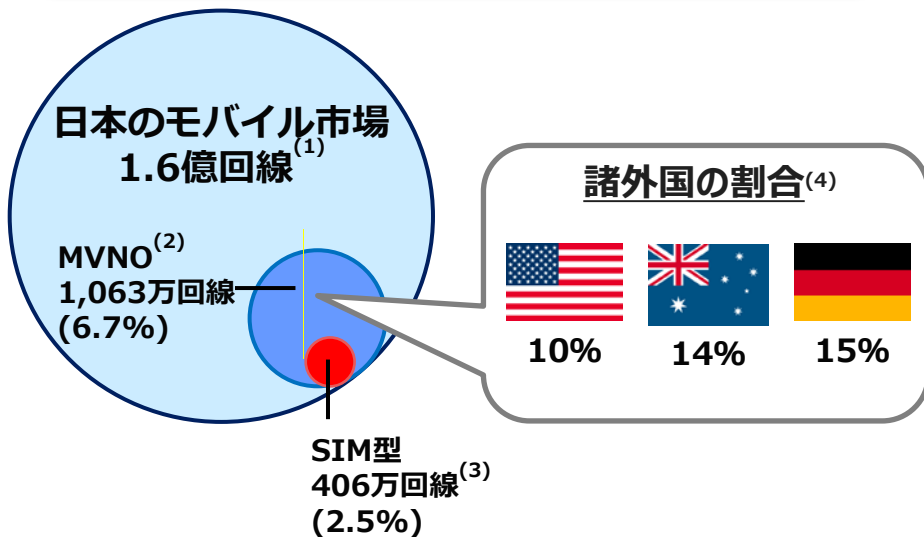
- MVNO：携帯キャリアよりモバイルインフラを賃借し、安価なデータ通信サービスを提供
- SIM：携帯通信に必要なICカード
- 対応端末：SIMロックフリー端末等
- MNP転入：携帯電話番号を変更せず他社へ乗り換え

料金シュミレーション(一例)

月額6,500円(税抜)のプランをIIJmioに乗り換えた場合

乗り換えた場合の料金(税抜)		
月額	ひと月あたり	2年間なら
上限 3GB	1,600円	4,900円
	おトク	おトク
		117,600円

国内MVNO利用普及率



<出展> (1)総務省 (15年9月末時点)、(2)MNOを除くMVNO契約数、総務省 (15年9月末時点)
(3) MM総研 (15年9月末時点)、(4)三菱総研「モバイルビジネスの将来及び海外MVNO事情」

総務省「モバイル創生プラン」

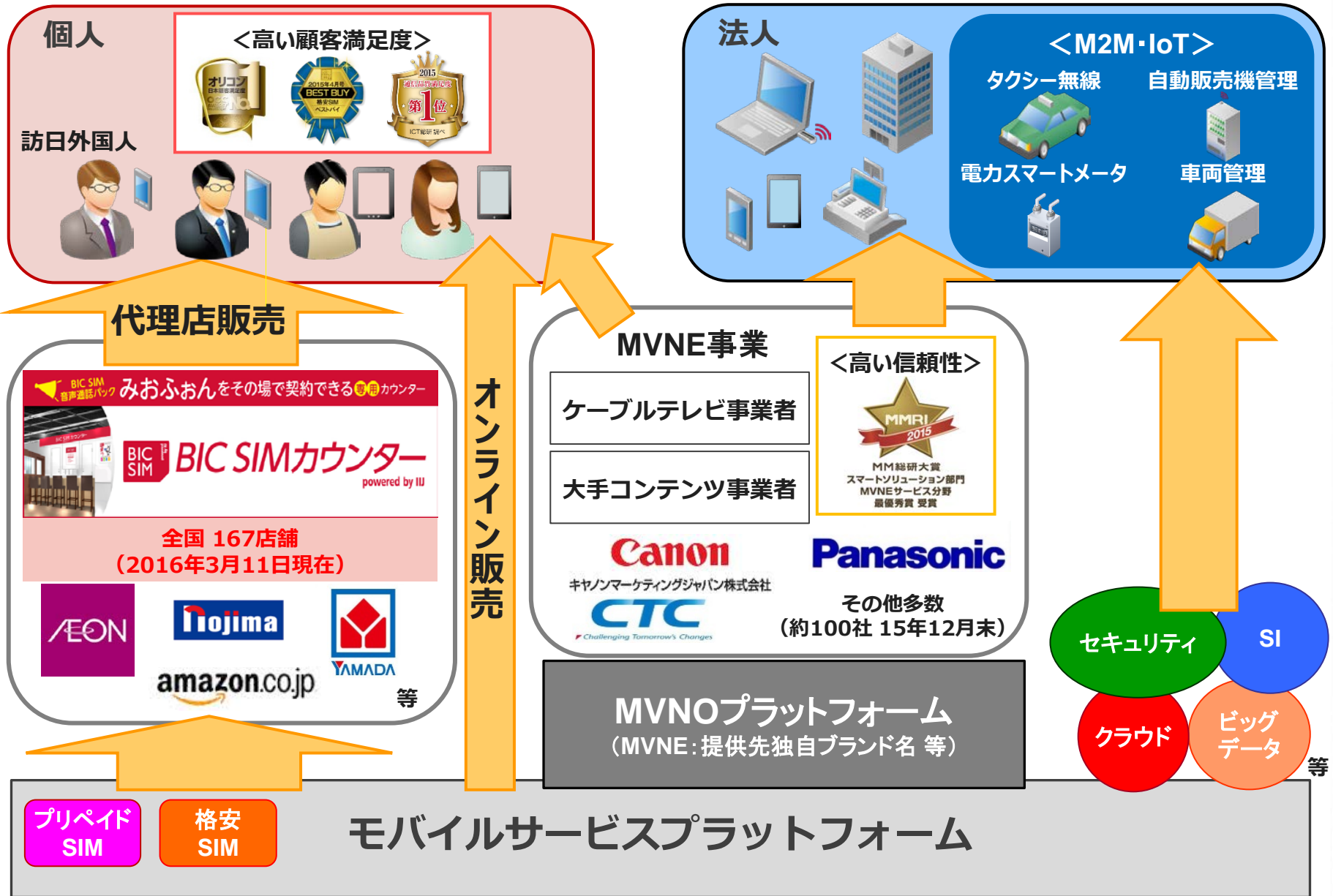
モバイルによる我が国創生と国民負担(通信費)軽減を目指す

- 自由に選べるモバイルの推進として、**SIMロック解除を義務化**
- 安くて安心して使えるモバイルの推進として、**MVNOの普及促進**
- 新たなモバイルサービスの創出として、事業者に対する**規制の見直し** 等

総務省
成果イメージ

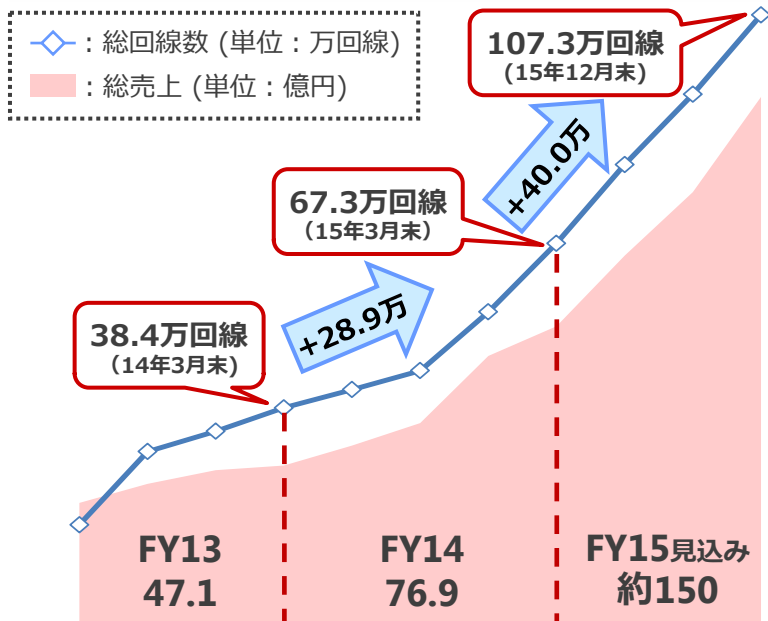
MVNO契約数：
2016年中：約1,500万契約
(2013年末：約670万契約)

モバイルサービス ～IIJのビジネスモデル～



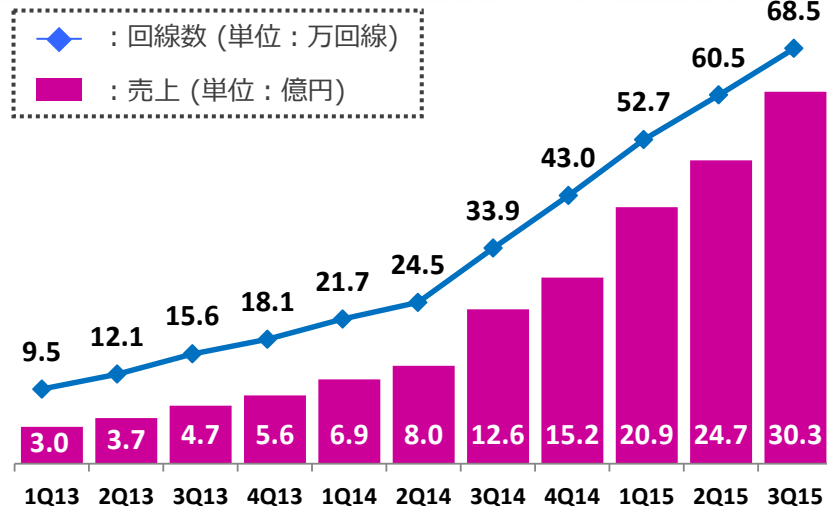
モバイルサービス ～ビジネス概況～

IIJモバイル関連総回線数・総売上



➢ '08年よりサービス提供開始にて早期黒字化

IIJ個人向けモバイル回線数・売上

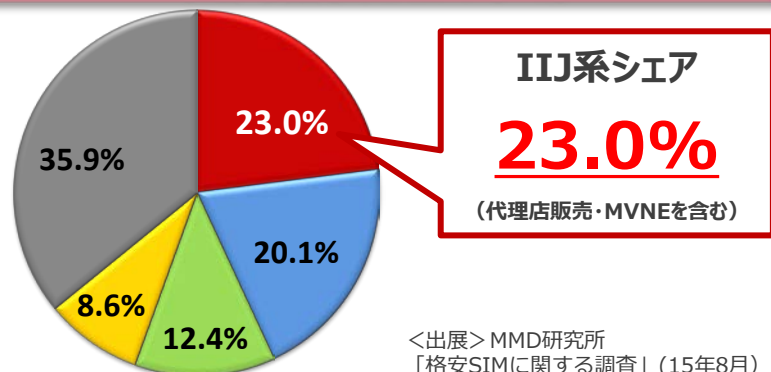


➢ 個人向け音声売上増加により粗利率低減傾向

成長戦略

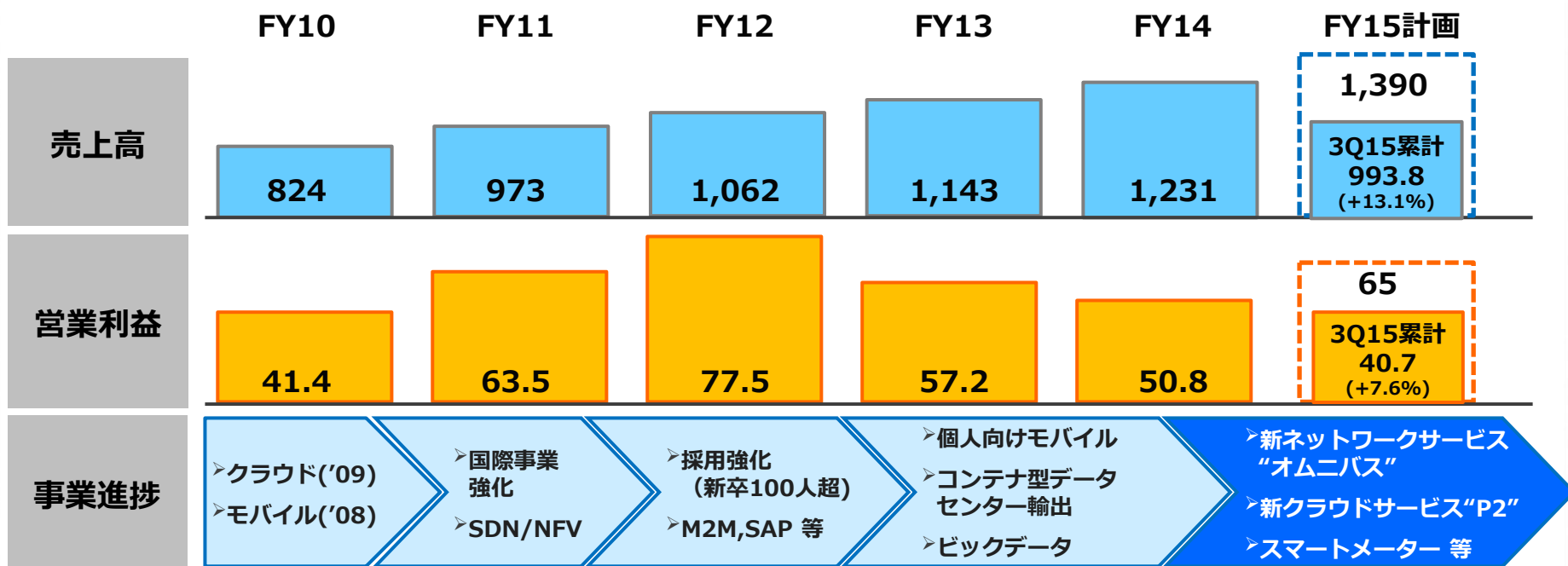
- ◆ 個人市場急拡大中、回線獲得継続注力
 - 大手量販店等との協業による販路継続拡大
 - MVNE (CATV、B2C事業者等) による一層の販売チャネル拡大
- ◆ 法人のM2M、IoT需要をターゲット
- ◆ 法人・個人の多種多様なトラフィック集約による中長期的なモバイルインフラ稼働率向上・粗利率増加を展望

国内格安SIM市場



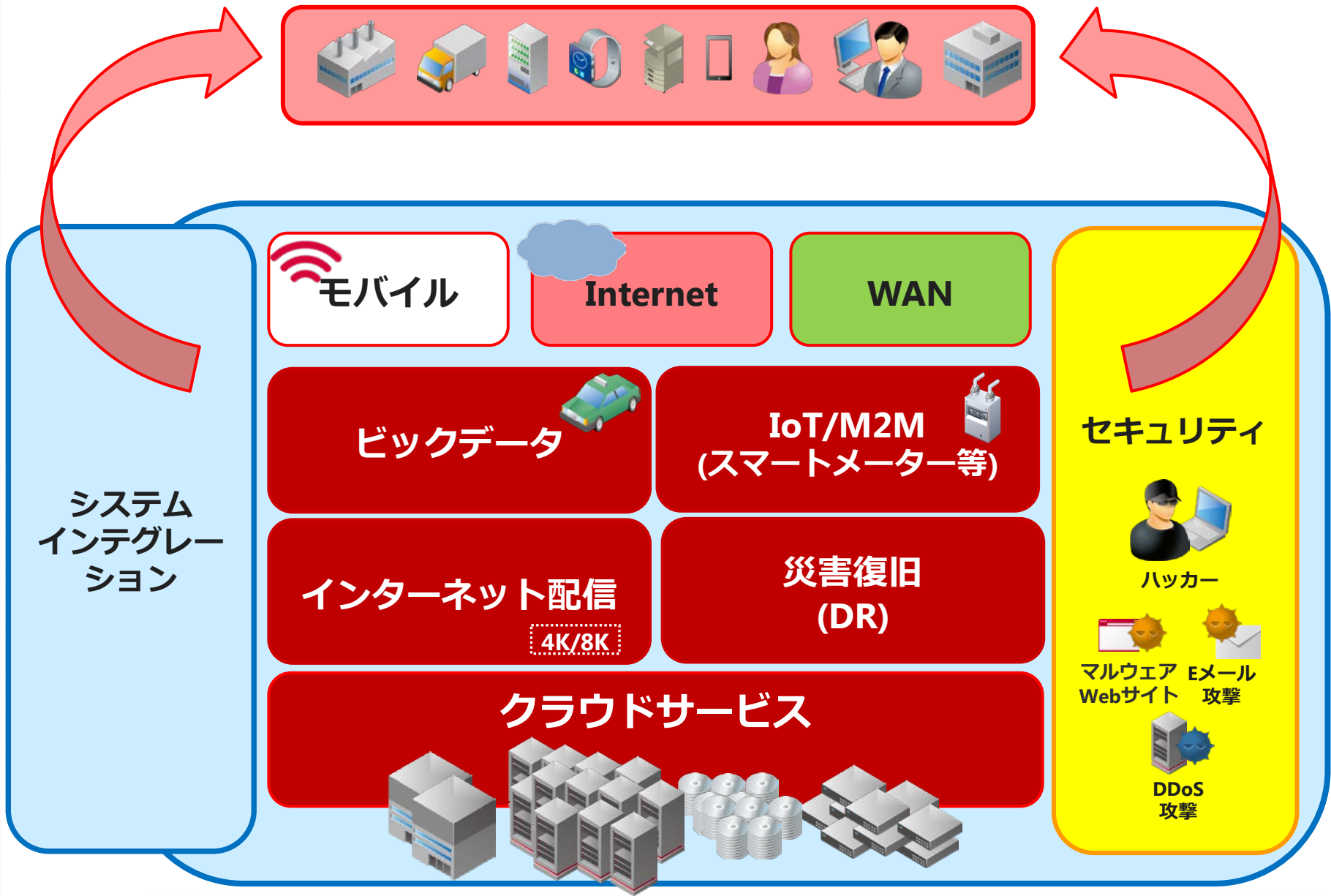
業績推移と事業進捗

単位：億円、()：前年同期比増減



業績推移	説明
FY13	<p>前年同期比減益</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 積極事業投資により費用増加 ● ゲーム・通信事業者等の特定大口顧客のストック売上減少
FY14	<p>前年同期比減益</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 積極事業投資の継続 ● モバイルデータ通信料改定が想定より低下せず
FY15	<p>継続増収にて増益推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 売上継続伸長により費用増加を吸収 <p>➡ 増収率向上により粗利拡大 (クラウド増収効果、国際事業赤字縮小等) 粗利・販管費のバランス改善により営業利益向上</p>

ネットワーク関連サービスの複合提供モデル



本日のアジェンダ

1. 会社概要・事業内容

2. IIJの強み

3. 成長戦略

4. 業績推移・見通し

5. コーポレート・ガバナンス

2016年3月期 第3四半期累計期間総括 (2016年2月9日発表)

継続増収でコスト増を吸収、想定どおりの増益推移

%: 前年同期比
 回線数: 15年12月末時点
 QoQ=前四半期比
 YoY=前年同期比

	< 3Q15累計実績 >		< FY15通期見通し >	
売上高	993.8億円	+13.1%	1,390億円	+13.0%
売上総利益	177.9億円	+8.2%	251億円	+13.7%
営業利益	40.7億円	+7.6%	65億円	+28.1%
当期純利益	25.7億円	+11.2%	40億円	+20.4%

モバイル	SI	セキュリティ
<p>個人好調・MVNE加速で回線数100万超へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 総回線数: 107.3万(+13.9万 QoQ) 2Q純増数(+12.3万 QoQ)より伸び増加 ➢ 個人回線数: 68.5万(+8.0万 QoQ) SIMフリー端末ラインアップ拡充、販路継続拡大・OTA対応店舗増加、プリペイド販路拡大中(駅中コンビニ他) ➢ MVNE回線数: 18.2万(+4.6万 QoQ) 2Q純増数(+3.2万 QoQ)より大幅伸長、MVNE先 約100社(CATV、メーカー等) 	<p>構築案件獲得・クラウドでSI運用伸び顕著</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ SI構築: サービス・製造・金融・公共等万遍に需要獲得、クラウド案件SIも多数 ➢ SI運用: 3Q15累計売上 +21.0% YoY うちプライベートクラウド +21.6% YoY <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業法人積み上げ、SAP・Microsoft等協業案件も好調 ・ P2で大型案件含み引き合い200件規模へ ・ FXサービス 3Q15累計売上+54.3%YoY 	<p>漏洩・標的型攻撃等への継続需要</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ CSIRT(*)構築、コンサル、FireEye等構築運用等のSI需要 ➢ サンドボックス等GW型サービス、DDoS対策サービス等の導入 ➢ 仮想デスクトップによる安全なインターネット接続環境との大型案件等 ➢ サイバーセキュリティ基本法施行、マイナンバー導入等追い風 <p>(*)Computer Security Incident Response Team</p>

積極事業展開で事業規模継続拡大を展望

国際事業	サービス開発	新たな取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ■ クラウド合弁事業: インドネシア(15年1月)、タイ(16年1月)で現地大手とパートナー運営 ■ コンテナDC: ラオス実証事業(16年1月~)でコンテナ輸出、他複数国引き合いも 	<ul style="list-style-type: none"> ■ IIJ Omnibus: SDN・NFV技術活用、将来のNWサービスの礎(15年9月~) ■ IIJ GIO インフラストラクチャーP2: ハイブリッドクラウド基盤、企業の本格利用促進(15年11月~) ⇨ 提供機能順次拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配信: 4K化に向け映像伝送IP化支援ソリューション(15年11月~)、ハイレゾ音源ストリーミングサービス(15年12月~) ■ スマートメータ: 電力自由化に向けBルートデータ関連ソリューション

業績動向・FY15見通し

単位:億円

	売上高比		前年同期比 増減	売上高比	
	3Q15累計 (15年4月～15年12月)	3Q14累計 (14年4月～14年12月)		FY15見通し (15年4月～16年3月)	前年同期比 増減
売上高	993.8	878.5	+13.1%	1,390	+13.0%
売上原価	82.1% 815.9	81.3% 714.0	+14.3%	81.9% 1,139	+12.8%
売上総利益	17.9% 177.9	18.7% 164.5	+8.2%	18.1% 251	+13.7%
販売管理費等	13.8% 137.2	14.4% 126.6	+8.4%	13.4% 186	+9.4%
営業利益	4.1% 40.7	4.3% 37.9	+7.6%	4.7% 65	+28.1%
税引前 四半期純利益	4.2% 41.8	4.4% 38.9	+7.4%	4.6% 64	+24.5%
当社株主に帰属する 四半期純利益	2.6% 25.7	2.6% 23.1	+11.2%	2.9% 40	+20.4%

FY15見通し

- ◆ 3Q15累計売上・利益水準は、ほぼ期初想定通り推移。
- ◆ クラウド売上は1Qからの予算乖離縮まず、コンテナ型データセンター海外輸出案件は期ずれ可能性あり。一方、SI構築は4Q偏重、モバイル・SI運用保守は期初想定を上回り推移。
- ◆ 4QにてMVNOインフラ賃借に係るデータ定額通信料(帯域あたり単価)の年度改定見込み。(前期は単価前年比23.5%減、今期は15%減で期中費用処理・織り込み)

連結バランスシート（サマリー）の状況

単位: 百万円

	15年3月末	15年12月末	前期末比増減
現金及び現金同等物	21,094	18,234	△ 2,860
売掛金	22,252	20,226	△ 2,026
たな卸資産・前払費用(短期・長期)	7,835	12,061	+4,226
持分法適用関連会社に対する投資	2,561	2,697	+136
その他投資	6,661	6,099	△ 561
有形固定資産	29,370	33,014	+3,644
のれん・その他無形固定資産	10,111	9,820	△ 290
敷金保証金	2,800	2,809	+9
資産合計	108,705	110,602	+1,896
買掛金・未払金	13,626	12,941	△ 685
未払法人税等	499	509	+10
短期借入金	9,250	9,250	-
リース債務(短期・長期)	7,863	8,579	+717
負債合計	45,862	46,197	+336
資本金	25,500	25,509	+10
資本剰余金	36,014	36,046	+32
利益剰余金(△欠損金)	△ 556	1,006	+1,562
その他の包括利益累計額	1,939	1,774	△ 165
当社株主に帰属する資本合計	62,504	63,943	+1,439

本日のアジェンダ

1. 会社概要・事業内容

2. IIJの強み

3. 成長戦略

4. 業績推移・見通し

5. コーポレート・ガバナンス

経営体制



IIJは米国ナスダック市場に上場しており、
米国会計基準・SOX法*が適用されております。

※SOX法：米国企業改革法（通称“サーベンス・オクスレリー法”）の略。
IIJは、識見の高い社外取締役及び社外監査役の選任のほか、米国SOX法に基づき、英文年次報告書の適正性に対するCEO及びCFOによる個人宣誓会計監査人の役務提供に対する監査役会の事前承認、内部通報制度の運営、監査法人による内部統制監査の実施、監査役会における財務専門家の設置、監査役会への権限強化等を行っております。

鈴木 幸一（代表取締役会長 CEO）

創業者、1946年生まれ

勝 栄二郎（代表取締役社長 COO）

2013年より現職、1950年生まれ

■ 取締役会

（13名のうち5名は社外取締役）

＜社外取締役＞

棚橋 康郎：新日鉄住金ソリューションズ元会長

古河 潤之助：古河電気工業元会長

小田 晋吾：日本ヒューレット・パカード元社長

岡村 正：東芝元会長

渡邊 大樹：NTT元副社長

■ 監査役会

（4名のうち3名は社外監査役）

＜社外監査役＞

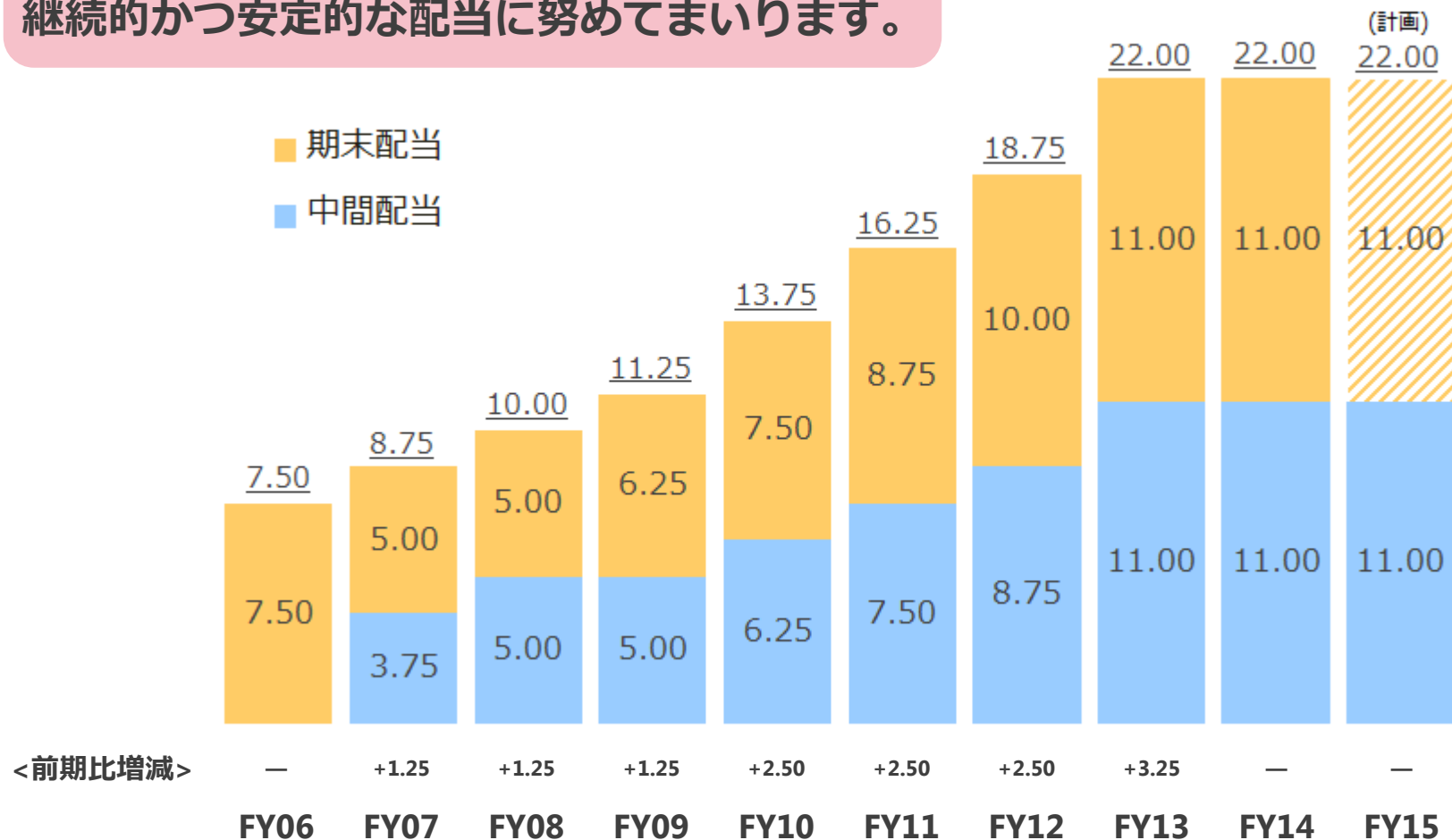
大平 和宏：常勤監査役

岡田 理樹：弁護士

小泉 正明：公認会計士

配当推移

事業成長に必要な内部留保に配慮しつつ、
継続的かつ安定的な配当に努めてまいります。



2012年10月1日付で当社普通株式1株を200株に分割しております。
当該株式分割に伴う影響を加味し遡及修正をした「一株当たり配当金」を掲載しております。

(参考) 株価推移

PER **26.6倍** (2016年3月期会社計画ベース)

EPS **87.07円** (2016年3月期会社計画)

PBR **1.7倍** (2015年3月期業績実績)



ご参考情報

ソーシャルメディア公式アカウント

◆ Facebook IIJ公式ファンページ



◆ Twitter PRアカウント



◆ Twitter 堂前(エンジニア)アカウント

◆ YouTube IIJmio公式チャンネル



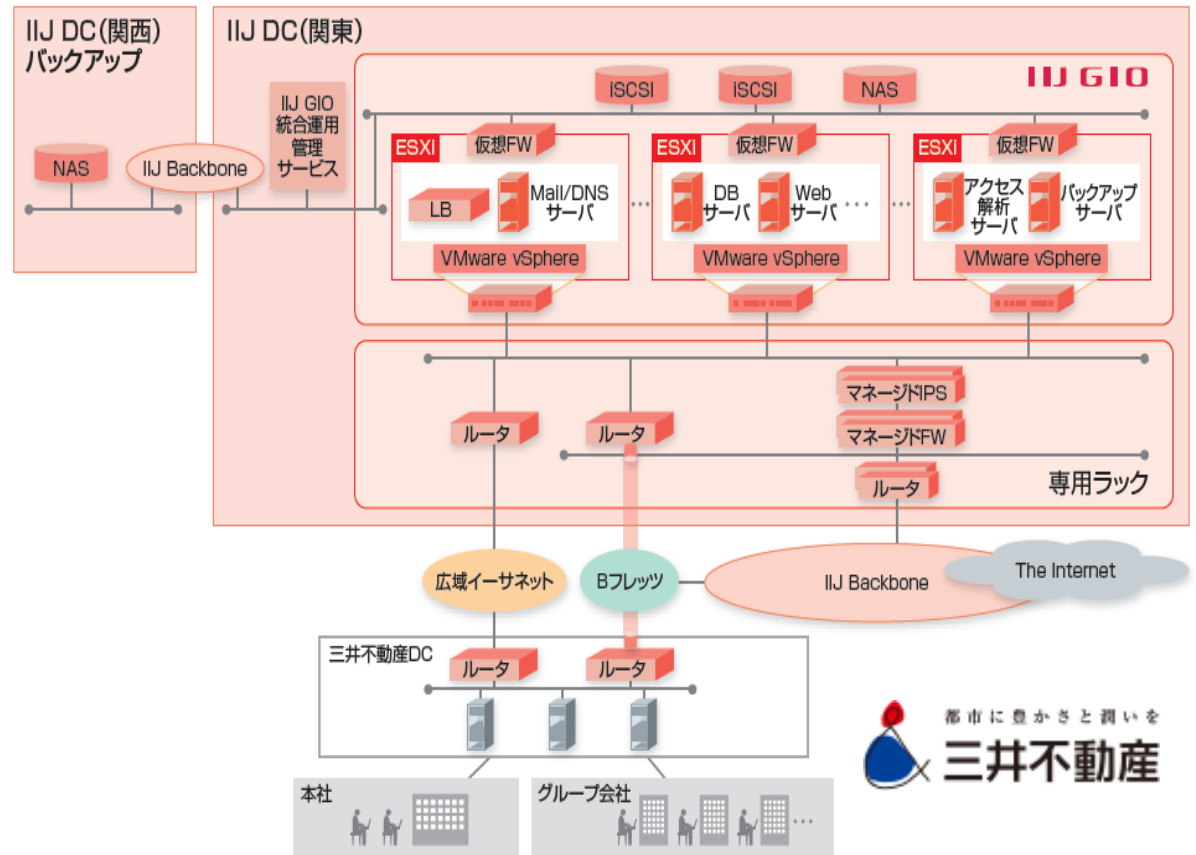
その他多数

顧客事例①

三井不動産グループ約150のWebサイトをIIJのクラウドサービス「IIJ GIO」を使い 新・Web統合基盤の上に構築

【選定の決め手】

Webサーバなどは柔軟性、拡張性の高いIIJ GIOを利用して構築する一方、セキュリティ機器についてはIIJのマネージドサービスを利用することで、グループで占有できる「いいところ」を提案。従来のオンプレミスと同等以上のセキュリティをクラウドで実現できる点が評価された。



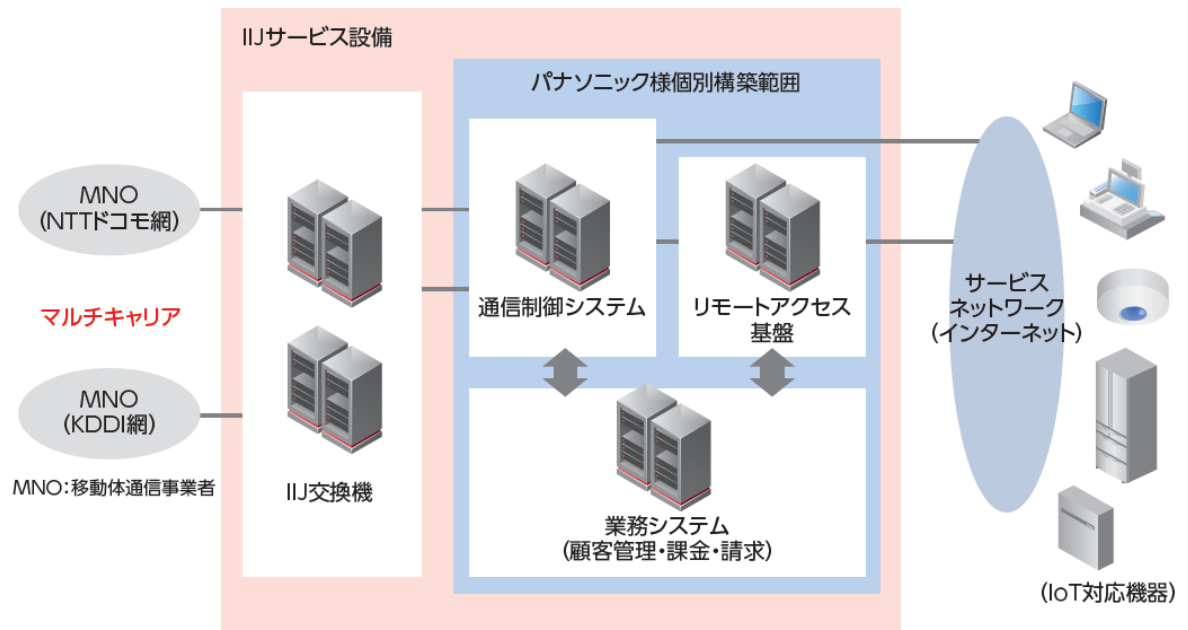
顧客事例②

パナソニックのモバイル事業基盤を IIJのサービスとSIで構築しIoT時代を見据えた 高付加価値サービスのビジネス創造を支援

Panasonic

【選定の決め手】

- MVNOとして大規模なモバイル通信サービスを手がけている実績
- モバイルネットワークからクラウド環境までをトータルに提供できる高度な構築・運用技術
- 独立系事業者としてのマルチキャリア対応が可能



Lead Initiative

日本のインターネットは1992年、IIJとともに始まりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。

Ongoing Innovation

本書には、株式会社インターネットイニシアティブに権利の帰属する秘密情報が含まれています。本書の著作権は、当社に帰属し、日本の著作権法及び国際条約により保護されており、著作権者の事前の書面による許諾がなければ、複製・翻案・公衆送信等できません。IIJ、Internet Initiative Japanは、株式会社インターネットイニシアティブの商標または登録商標です。その他、本書に掲載されている商品名、会社名等は各会社の商号、商標または登録商標です。本文中では™、®マークは表示していません。

©2016 Internet Initiative Japan Inc. All rights reserved. 本サービスの仕様、及び本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。